

(平成29年度分)

団体名	ゆりのき台自治会
	
	

自治会の総合防災訓練での5・6年生「AEDを使った救急救命訓練」の様子。毎年小学生は授業として防災訓練に参加。高学年は2度救急救命を学んで卒業する。会場にゆりのき台小学校を借りたことから、この仕組みが出来上がった。AEDの操作に慣れる、ボディを用い胸骨圧迫を体験することを目的にグループ単位で実施。大人と違い体力に差があるため、胸骨圧迫はしっかり沈み込まないし、20回も続かない。だからこそ助けを呼ぶ・AEDを取りに行くなど小学生にできることで「命のバトンをつなぐこと」を学んでもらう。

夏休みに実施する避難所見学会での「AEDを使った救急救命訓練」はゆりのき台中学校・県立西陵高校の理解を得て部活単位での参加が定着した。地域住民と一緒に訓練するため、会場内は活気にあふれている。自治会の班長・副班長・役員はスタッフとしての参加だが、訓練も体験してもらおう。毎年担当者が替わるため、自然と体験者が増えていく。救急通報電話のかけ方・救急救命の最近の話題なども織り交ぜ、緊急時に正しい判断ができるような情報提供の場にもなっている。

ゆりのき台自治会ではこのほか事業所やPTAからの依頼にも応じている。JR西日本あんしん社会財団の機材提供先に決定してから「防災会議」を開催。自治会・防災リーダー・民生委員・小学校・中学校・高校・老人会・事業所などで構成。地域ぐるみで「あんしん・安全」を考えている。世代や役割を超えて話し合える場があるため理解が進み連絡調整がスムーズになり、役員が一人で抱え込む負担も軽減されている。また、自治会外への機材貸し出し・防災リーダー応援要請など柔軟に対応、三田市全体の「あんしん・安全」を支える一助になりたいと願っている。